事 務 事 業 チ ェ ッ ク シ ー ト

事務事業No　事業名
506　普通河川改修維持事業（２８河川）

分野別目標	4	自然環境と都市基盤が調和した快適なまち
政　策	3	住環境の整備
施　策	2	河川・水路の整備
基本方針	2	普通河川の改修

事業種別	継続	主な事務事業	○
事業期間	平成２０	～	
事業実施の根拠法令			
関連個別計画			
担当課・担当課長（Tel）	河川港湾課	榎本　利孝(435-1090)	
関連課			

［事業基本情報］

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計	一般会計		
	款	土木費		
	項	河川費		
	目	河川整備事業費		
	大事業	河川整備事業		
	事項	普通河川改修維持事業		

「３つの約束・４４の約束」との関連性

	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
３つの約束		○		
４４の約束				○

1　事業概要及び実施内容

	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容
事業概要	市管理河川等の維持補修及び改良を行い、浸水被害を低減させる。	市管理河川の草刈・土砂除去等の浚渫、護岸補強等の維持補修及び改良や河川等における修繕を行う。 事業の施行に際しては、計画や地元からの要望を基に、事業実施場所を決定する。その後、業者に発注し、適切に施工されているかを監督・審査する。

実施内容	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度
	護岸改修及び護岸修繕	護岸改修及び護岸修繕	護岸改修及び護岸修繕	護岸改修及び護岸修繕	護岸改修及び護岸修繕

2　事業コスト

事業費等 千円			平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
			当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	計画	決算
	事業費		110,205	69,290	70,014	68,009	66,150		66,150		66,150	
	伸び率（%）		-	-	-36.5%		-5.5%		0.0%		0.0%	
	人件費	常勤職員	20,840	23,472	24,503	23,459	24,503		24,503		24,503	
		非常勤職員		0	0	0	0		0		0	
		小計	20,840	23,472	24,503	23,459	24,503		24,503		24,503	
	国庫支出金		0	20,000	0	0	0		0		0	
	県支出金											
	市　　債		84,600	29,400	48,500	50,700	45,100		45,100		45,100	
	そ の 他											
	一般財源（税等）		25,605	19,890	21,514	17,309	21,050		21,050		21,050	
	所要人数	常勤職員	2.81	3.15	3.15	3.10	3.15		3.15		3.15	
		非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.00		0		0	
主な予算内訳			河川整備工事請負費59,136千円　河川等浚渫委託料5,019千円　所々修繕料1,995千円									

3　目標及び実績

	指標名及び達成状況							平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	普通河川（２８河川）の改修延長（累計）						年度目標値	20,196	20,476	21,009	21,229	21,449
							実績値	20,294	20,789			
	単位	m	全体目標値	21,136	全体目標達成度	96.0%	年度別達成度	100.5%	101.5%			
							年度目標値					
							実績値					
	単位		全体目標値		全体目標達成度		年度別達成度					
成果指標	普通河川（２８河川）の改修率（延長）						年度目標値	69.4	70.6	72.4	73.2	74
							実績値	69.7	71.7			
	単位	%	全体目標値	72.9	全体目標達成度	98.4%	年度別達成度	100.4%	101.6%			
							年度目標値					
							実績値					
	単位		全体目標値		全体目標達成度		年度別達成度					

4　事業の評価

評価基準						
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい		減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要		見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能		市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか	○	急いで取り組む		中長期的に取り組む		緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない		できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70～90%未満)		達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある		貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある		できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない		見直しが必要

5　今後の方向性（担当課評価）

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
		コスト投入の方向性			

担当課評価の根拠	老朽化した護岸改修を充実させることにより、豪雨時の越流等を現状より減少させる。 結果として、浸水被害の被害低減を目指す。
「見直し」 「改善」案	老朽化した護岸を改修し、通水機能を確保することにより、災害予防につながる。